

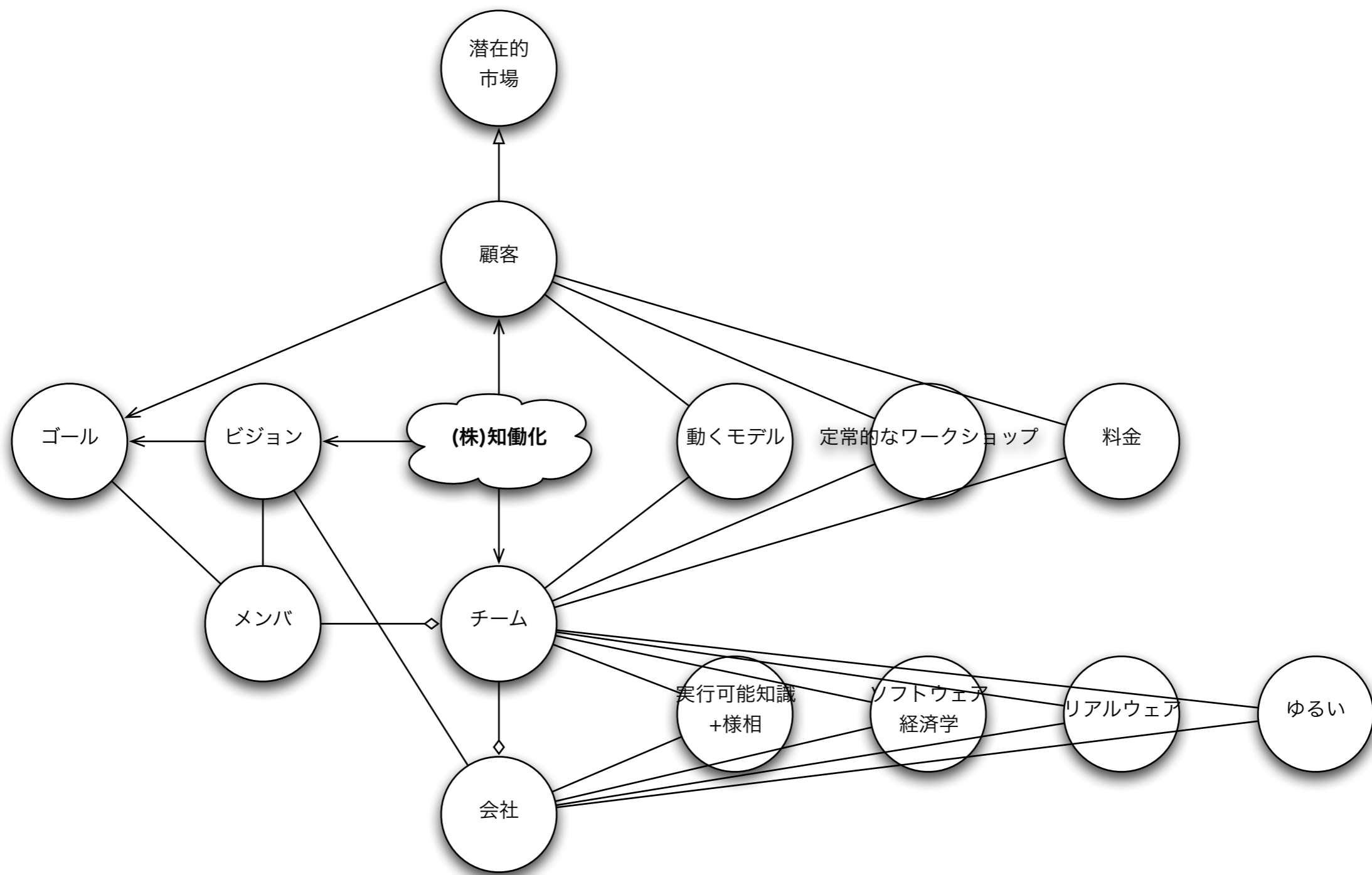
もし(株)知働化があったら
それはどんな会社であるべきか

masaki@metabolis.co.jp

2009.10.15

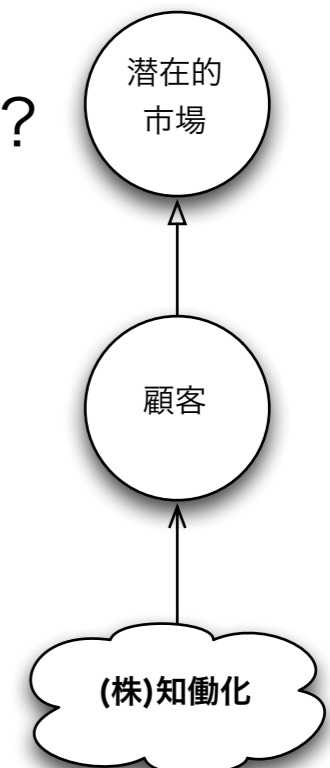
- 以下は仮定の話であり、現時点で具体的にそういう予定や計画があるわけではありません
- もし「(株)知働化」という会社があり、ビジネスとして知働化を進めようとしているとしたら、その会社はどのような会社で、どのような風にビジネスを行っている(べき)だろうか、をケーススタディ(妄想)として考えます
- このケーススタディを通して、(逆方向から)知働化の実現とはどういうものかを具体的に議論したいと思います

- それはソフトウェア・ベンダではない
 - それはコンサルティング・ファームではない
 - それはSIerではない
 - もちろん人を切り売りして稼ぐ会社ではない
-
- しかし、システムを構築する能力を持ち、ドメイン知識を（顧客と共に）理解/分析/形式化/改良する能力を持つ
 - なぜならば「システム」とは「ドメイン知識」の具体化/実行可能化だから



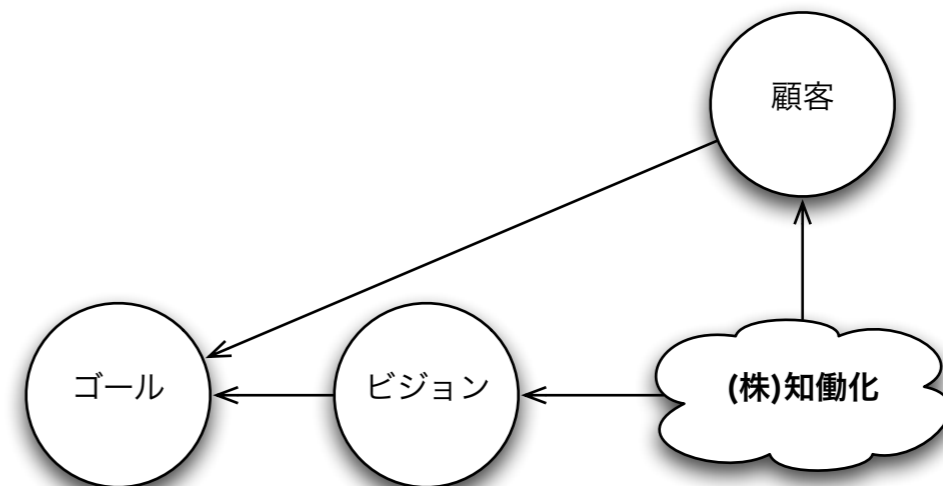
潜在的な顧客

- 多分, 情報システム部門ではない
- むしろ経営企画室とか, 役員直属案件ではないか
- 新しい予算はないが, システム化予算の一部を使えば, 知働化でき, その結果としてシステムも低コストで提供することができる
- つまり情シスとは敵対関係になる可能性がある
- BIやKM, DWHなどにお金を掛けようとしているところ
- 規模の大小は問わない
- ただし, (後で見るように) 一度に巨額な予算 (例えば5億円) は必要ないが, 定期的にそれなりの予算 (例えば毎年5千万円) は必要になる
- 既存の常識や遺産に縛られない, 新興の, 知識依存の産業はないか?



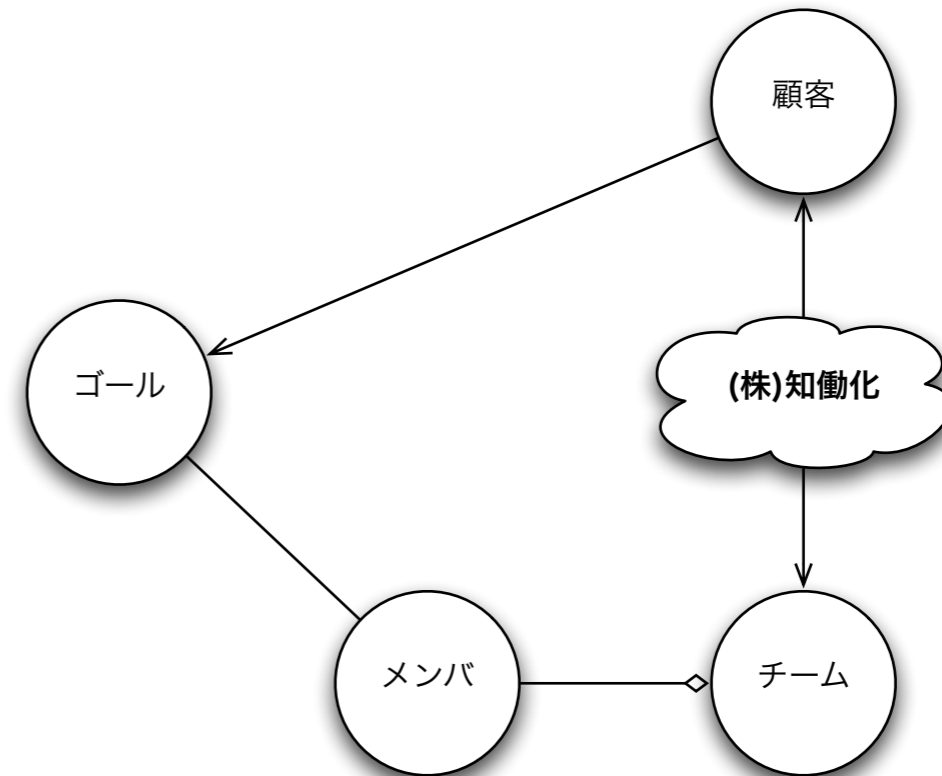
目的

- 情報からモデルへ
- モデルから動く知識へ
- IT化ではない
- (知) 識を業 (務) とカップリングさせ, 業と識が相互進化できる仕組みを提供する
- 今できないが, 知働化すればできる, 儲かるものは何か?
- 例えば「経営の未来」(ゲイリー・ハメル, 日本経済新聞社, 2008), 「奇跡の経営」(リカルド・セムラー, 総合法令, 2006) のような自律的な企業があれば, そのような会社に従来型のITはまったく不要で, 知働化こそが必要なはず
- 本橋さんの言う組織かも知れない



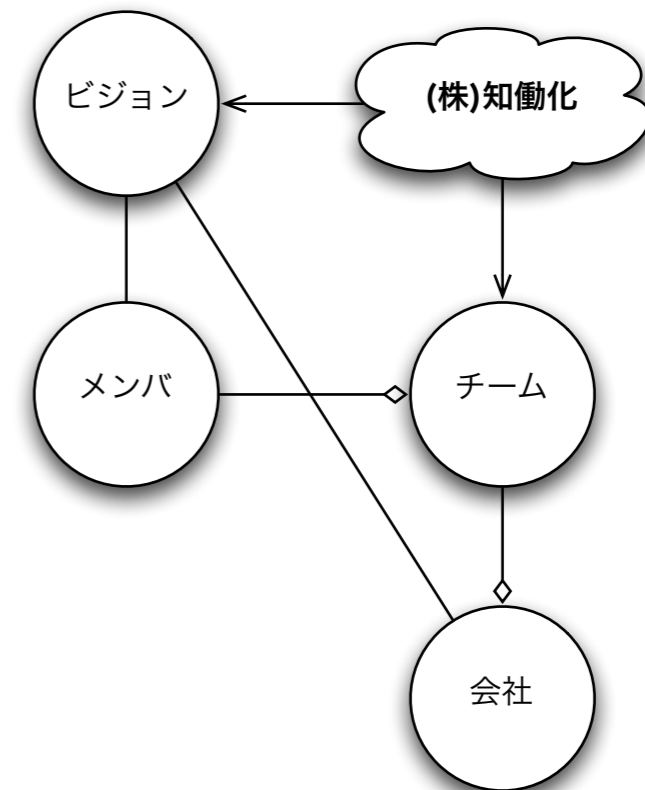
チーム

- 数人の小さいチームで
 - 顧客とのさまざまなやりとり
 - 現場の調査
 - モデリング
 - 実働化
 - 運用
- まですべてやる
- 基本的にこのチームがそのシステムの面倒を数年から十数年にわたってみる
 - チーム内の人間は少しずつ変わるかも知れない
- 常に顧客とコンタクトする
 - ネットワーク経由, システムを通じてでもよい
 - 顧客SNS



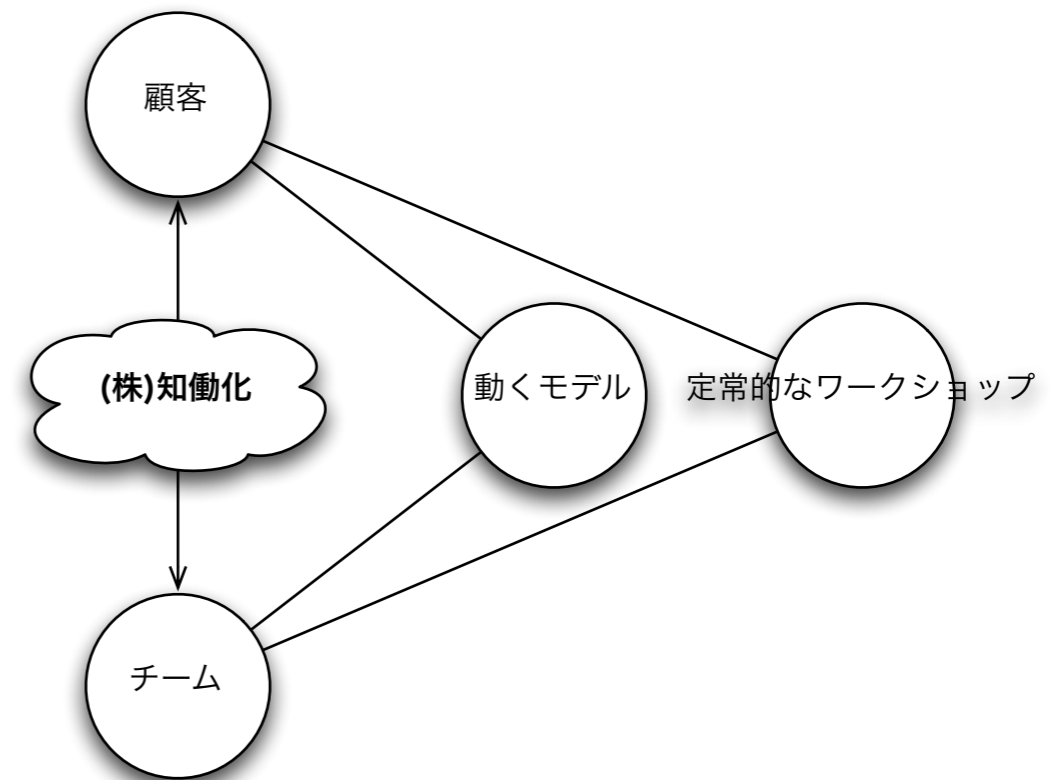
会社

- 基本的にチームの集まり
- チームは有機的に手伝い合う
- 横断的なチーム (昔だったら研究所のような) は必要があるのか?
- プラットホームを開発, 保守するチームは必要のような気がする
- 半分はプラットフォーム・チーム, 半分はその上での知働化チームとか
- 一人単位の遊軍はいるといいかも知れない
- 広告代理店っぽい?



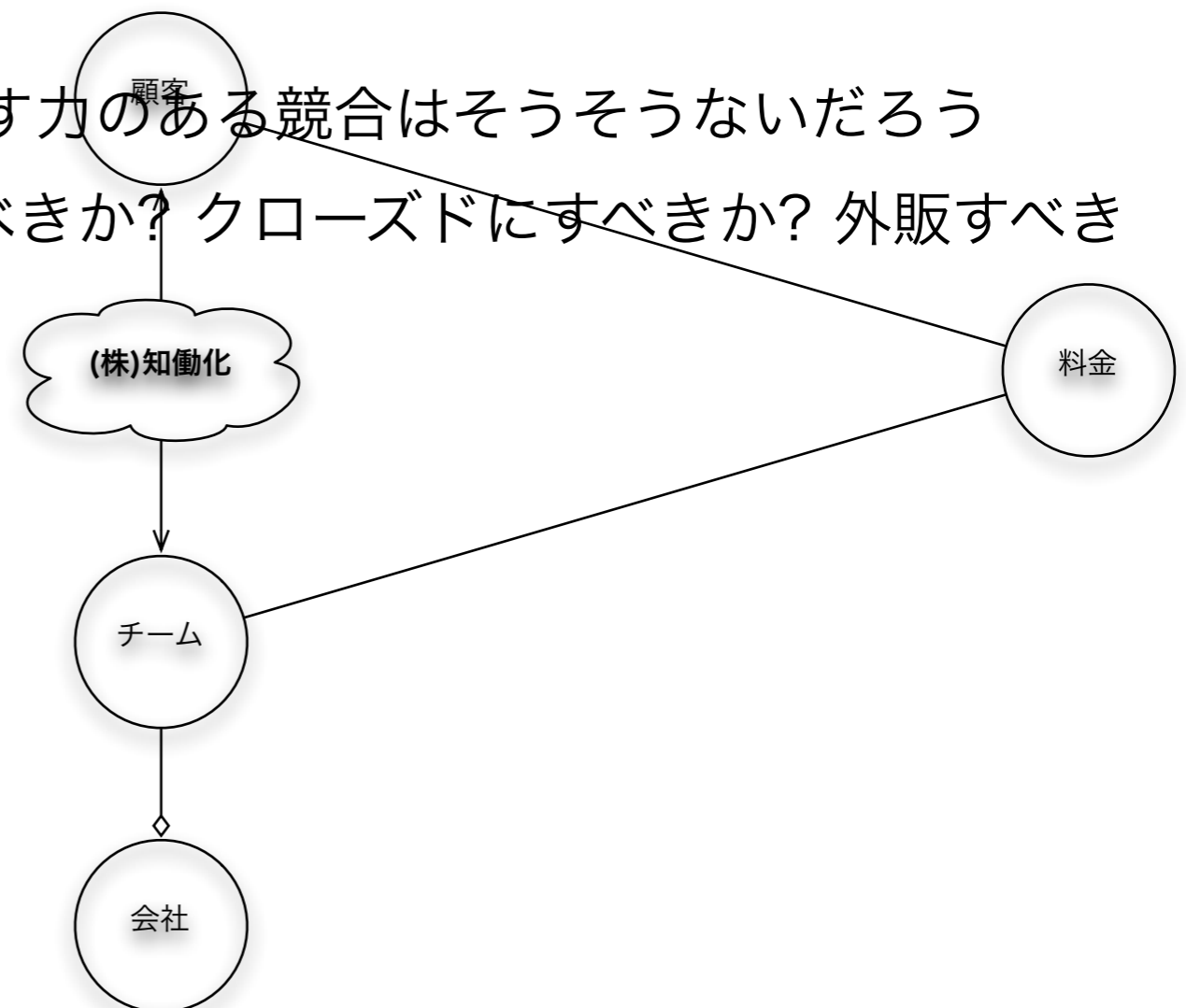
何が顧客に提供されるか

- 動くシステム (知働)
- その中に
 - 構築に当たって用意したすべてのモデル
 - 実行されているシステムのモデル
 - ビジネスの評価/実行可能なモデル
- 知働化チームとのネットワーク



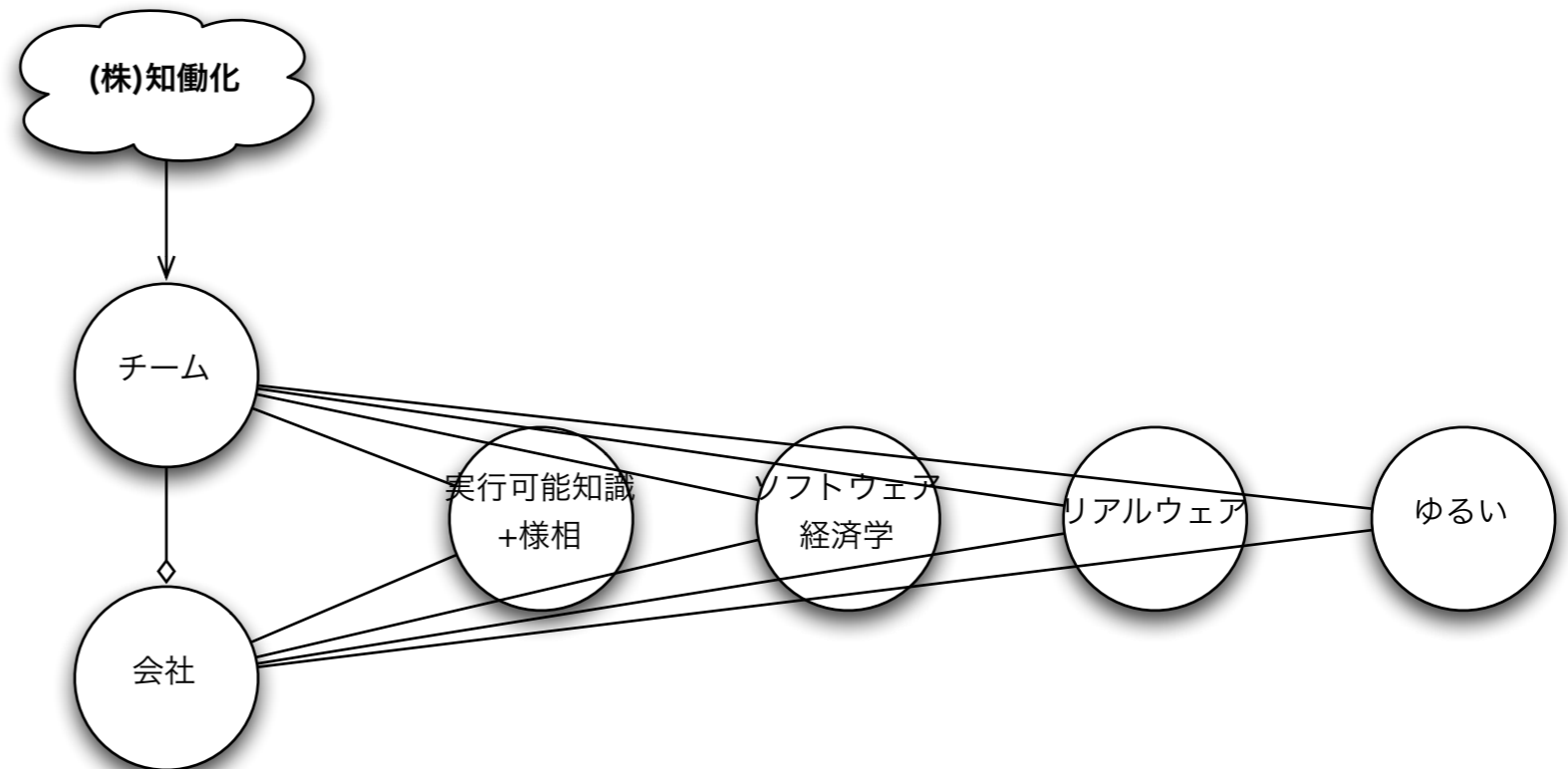
会社は何でお金をもらうか

- システム (知働) の提供と継続的な更新によって
 - システムの大きさを表す何かの単位 x 利用者数 x 月数
 - システムの目標 (これはシステムに埋め込まれているはず) への到達度
- ただし, モデルやデータは顧客のもの
 - もし顧客が別のベンダに乗り換えたいと言ったとき, モデルやデータを人質にしたらダメだろう
 - ただし, そのモデルやデータを活かす力のある競合はそうそうないだろう
- システム自身はオープンソースにするべきか? クローズドにするべきか? 外販すべきか? フランチャイズすべきか?
- とりあえずはどれでもいい



どんな知働化の力を持っているか

- さまざまな技術的視点が並行的に分立している
 - 実行可能知識+様相 = メタ・ビジネス環境
 - ゆるい = 統計的発見的データ進化
 - ソフトウェア経済学 = 導入, 資産評価
 - リアルウェア = ソフトウェア資産化 (ベンダ側)
 -
- これらを統合して, 価値にする



実行可能知識 + 様相の場合

技術的には

- A. システム構築に関わる情報をシステムに作り込む. ユーザからアクセスできるようにする (embedded-past)
 - 要求, ユースケース, 概念モデル, 履歴, ...
 - B. システム構築の前提条件と目標をシステムに作り込む. それらが常に評価できるようにする (embedded-goal)
 - BSC, ... ← ソフトウェア経済学?
 - C. システム構築の基礎となるモデルを編集可能な形でシステムに作り込む. ユーザがモデルを編集することによって, システムが成長できるようにする (embedded-future)
 - ドメイン・クラス, プロセス, ルール, ...
 - D. システム構築環境自体をシステムに作り込む. いつでもシステムの「保守」ができるようにする (embedded-meta)
 - この四つは微妙に重なっているが
 - 竹洞さんの問題意識と合っている?
- +
- 知働化プロセス

実現方法

- A: 構築過程の歴史の埋込 (おもにread-only)
 - これは汎用的. そういうプロセスと技術を作ればよい
- B: システムの前提条件, 目標の埋込 (おもにwrite-only)
 - 案件ごとに前提条件, 目標をモデル化する
 - それが達成されているかどうかは定期的/自動的に評価され, 報告される
 - 顧客とそういうプロセスを共有し, 技術を作る
- C: 実行モデルの埋込 (interactive)
 - これは構築技術を拡張すればよい, e.g. grails
 - A, Bとの相互作用がある
- D: 構築環境の埋込 (tool)
 - Cよりさらに拡張する, A, B, Cを支える技術

技術基盤

- Grailsをベースにして、行けるような気がしているのですがね

社内における流通

- 各チームのプロジェクトの進行に伴って, リアルウェア・コンポーネント? (or grails plugin?) が蓄積されていく
- これは社内で共有される
- これが(株)知働化の資産となり, 速度を高め, 質を高める

課題

- ユーザにこんなことができることを納得させること
- ユーザがこんなことができるようにすること
- ユーザが自分たちで本当にこんなことがしたいかどうか

- 実現してみせるしかないかも知れない
- ここでは組織が前面に出ていて、人があまり出てこないが、それは「ゆるい」の出番かも知れない
- ここでは顧客/ユーザの視点だが、これをベンダの視点にすると「リアルウェア」かも知れない

